

# 【国語 小6・「日本文化を発信しよう」①】

## 育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(2)イ  
(思、判、表等) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 Cウ  
(学びに向かう力等) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

## ICT活用のポイント

### 課題追求において

- ・学習支援ソフトでの課題提供による、個での課題追求の取り組みやすさ
- ・学習支援ソフトによる、他者の多様な考えを共有をすることによる思考の深まり

### 単元を通しての振り返りにおいて

- ・自分の考えの類型化や視覚化
- ・学習データの蓄積や再生

## 事例の概要

### 本時のめあてをつかむ

高畑さんは、絵のどこが、どのようによいと考えているかが分かるところを見つけよう

### 課題を追求するために個で考える

友達との交流で課題を追求するための考えを出し合い、新たな気づきをもつ

### 本時のまとめ、振り返りをする

### 個による課題追求

- ・学習支援ソフトにより教師が児童生徒に「本文カード」を送付しておく。
- ・児童は I C T 端末上で筆者が「何に着目しているか」「絵や絵巻物についてどんな評価をしているか」などが分かる叙述に線を引く。
- ・線を引いた「本文カード」を提出させる。

### 友達との交流

- ・ I C T 端末で友達が提出した「本文カード」を見て、自分の考えと比較・検討する。
- ・線を引いた「本文カード」を教師が意図的に選択して大型提示装置で示し、多様な視点に気付けるようにする。

### 友達との交流

- ・毎時間の振り返りを「振り返りカード」に入力し、学習支援ソフトにより提出する。
- ・「振り返りカード」の色を内容によって変え、視覚的に捉えやすくする。また、振り返りを蓄積することで単元の解決につなげられるようにする。

# 【国語 小6・「日本文化を発信しよう」】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



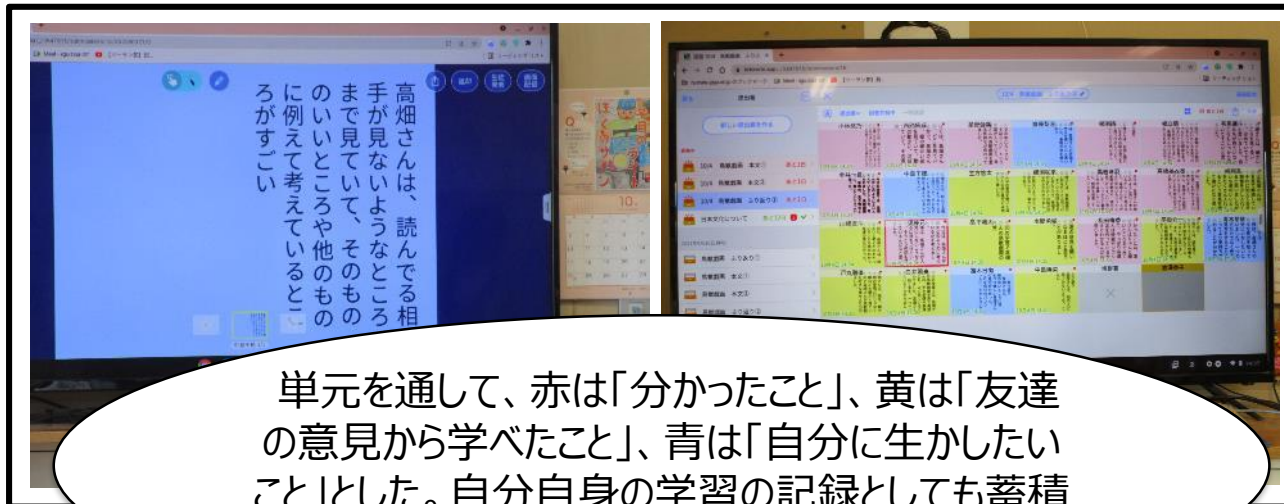
間違えても簡単に引き直すことができるから安心してできるよ。

自分とは違うところに引いているな。なぜここにも引いたのか聞いてみたいな。

カードを意図的に提示することで、様々な視点から話し合いができた。

単元を通して、学習支援ソフトに教科書の本文をカードで送付し、活用した。容易に線を引き直すことができるため、繰り返し取り組む姿が見られた。また、課題によって色を変えることで、叙述の関係をつかむこともできた。教師にとっては、一人一人の考えを見取りやすくなり、個別の支援に生かすことができた。全体の話し合いでは、教師による意図的なカードの提示により、様々な視点での考えを共有し、見方を深めることができた。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



単元を通して、赤は「分かったこと」、黄は「友達の見え方から学べたこと」、青は「自分に生かしたいこと」とした。自分自身の学習の記録としても蓄積でき、導入時の前時の振り返りにも有効だった。

振り返りを「振り返りカード」に入力して提出させた。カードの色を選択して書かせることで、自分の考えが明確になった。また、書くことが苦手な児童にとっても、カードの色を選ぶことが自分の考えを表す形になり、各自の主体的な学びにつながった。また、友達の振り返りも参照することができ、全体での共有も容易だった。

【活用したソフトや機能】

学習支援ソフト（データ提出、一覧表示等）